

中期目標検討の評価と 今後必要とされる議論

2009年9月27日(日) 環境経済政策学会 企画セッション
WWFジャパン 気候変動プログラムリーダー 山岸 尚之



委員会での検討過程の評価(1)

足りなかった視点

何のための中期目標なのか？何を達成したいのか？

究極的には

危険な気候変動を防ぐこと

- ✓ 日本の排出量を減らすこと
- ✓ 他国より積極的な削減を促す
- ✓ 日本自身の長期での大幅削減に備える

委員会での検討過程の評価(2)

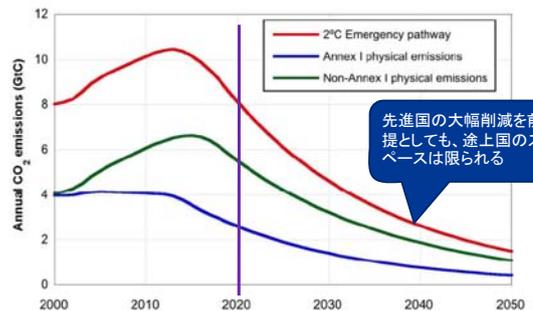
十分に行えなかった検討

対策を行わないことによる費用

- 日本における影響の費用
- 海外における影響が日本に対して及ぼす費用
 - ・ 資源・食料の海外依存度が高い日本

先進国の目標は十分なのか？

現状の先進国全体の目標は10~16、17% ↔ 25~40%



Paul Baer et al. (2008) The right to development in a climate constrained world: The Greenhouse Development Rights framework (Second Edition) EcoEquity. <http://www.ecoequity.org/GDRs>

今後必要になる議論

- 個別対策の議論
 - ・ 個別の省エネ技術、再生可能エネルギー
 - ・ 可視化のためには“ウェッジ”概念が有用か
- 対策を後押しする政策の議論
 - ・ 排出量取引制度の制度設計
 - ・ 炭素税
 - ・ 再生可能エネルギーの固定価格買取制度
 - ・ 基準(製品、建築物、工場)→それぞれのフローに

